

小さな親切行動を考える (第二報)

大学生の親切行動と「好子出現阻止の弱化」

Reconsideration on Behaviors of People's Kindness Action

植木 是¹⁾ 三橋真人¹⁾

NAO Ueki, MABITO Mitsuhashi

¹⁾東海学院大学

TOKAI GAKUIN University

Key words: Behaviors of People's Kindness Action punishment by the prevention of the presentation of a reinforcer

目的

本論文では、三橋 (2013) の調査において明らかになった、「若者の親切度低下は根拠がない」という結論から問題を拡張し、なぜ親切度が低下していないにも関わらず親切行動があまり行われていないのかという問題を調査した。

方法

「いざやろうと思うと実行に移せない小さな親切ランキング」¹⁾ (2007) を活用し、上位 10 項目 (table 1) に限定した。表を見てもらい、共感できる項目にその理由を記述してもらった。

table 1. 10 種類の「小さな親切」

| |
|--|
| 1. 公共の場で騒いでいる人を注意する。2. 本人が気づいていない恥ずかしいことをこっそり教える。3. お年寄りの手を引いて横断歩道を渡る。4. 電車やバスで席を譲る。5. 落ちているゴミを拾う。6. 大きな荷物を運ぶのを手伝う。7. 倒れている自転車を起こす。8. 気分の悪くなった人に声をかける。9. 道に迷っている人に声をかける。10. 探し物を一緒に探す。 |
|--|

調査対象： A 大学学生 1 年生、203 名

調査方法： アンケート (選択回答自由記述形式)

調査期間： 2007 年 4 月 19 日～2007 年 4 月 20 日

倫理的配慮： 回答者の同意を得ている。

結果

アンケート調査により得られた結果から以下の 4 つの属性に分類した。

- (1) 自己保身：親切であると考えて行った行動に対して反感を買い、自分の身に危険が及ぶ可能性があるかと判断する状況の思考。
- (2) 被親切者の心境と対応：行った親切を相手が不快に感じる可能性があるかと判断する状況の思考。
- (3) 技術的困難：親切行為をしたいが、自分の技術の低さからその行為を困難なものとして捉えてしまう状況の思考。
- (4) 他者依存：自分が親切行為をしなくても、他の人が行うのではないかという期待をする状況の思考。

1) 2007 年 4 月期「goo 調べ」ランキング調査概要

調査対象： 「goo リサーチ」登録モニター

調査方法： 非公開型インターネットアンケート (選択回答形式)

調査期間： 2007 年 4 月 19 日～2007 年 4 月 20 日

分類の例としていくつか示す。

- ・回答例 1「注意したことによってトラブルが起きるのを避けたいから」 →(1)自己保身に分類
 - ・回答例 2「介助したことないし難しそうだから」 →(3)技術的困難に分類
 - ・回答例 3「相手に嫌な顔をされて傷つきたくないから」 →(1)自己保身と(2)被親切者の心境と対応に分類
- 回答を 4 つの属性に分類した結果を table 2 に示す。回答者数は 203 人であるが、一人が複数の項目に共感している場合もあるため、回答数は 1042 件であった。

table 2. アンケート調査結果

| | 自己保身 | 被親切者の心境と対応 | 技術的困難 | 他者依存 |
|-----|------|------------|-------|------|
| 回答数 | 182 | 275 | 9 | 43 |

考察

アンケート調査結果を分析した結果、4 つの属性のうち「被親切者の心境と対応」と「自己保身」の 2 つが小さな親切を阻止する主な要因であることがわかった。小さな親切を実行したいという思い以上に、相手からのマイナスな対応に不安を感じているのである。誰だって、親切にしたのに不快な気分になるのは避けたいはずである。調査から分かるように、相手から喜んでもらえる、責められないと言う確証が持てれば、小さな親切を行動に移せる、という人はとても多いことがアンケート調査により確認できた。また、これらの繰り返しによって、若者の中に「親切は面倒」という気持ちが生まれたのも事実である。現にアンケートの結果には、その場面に遭遇しても、結局面倒で実行に移せない、という回答も多くある。つまり、親切をしたものに親切が返ってこない今の社会環境が、若者の小さな親切を行動に移すことへの不安を生み、更に親切行動への意欲をそいでいると考えられる。

小さな親切を若者が行うのは当然、という考え方を持つのではなく、きちんと小さな親切を行ったものに感謝を表すことが当たり前の社会環境になれば、若者の小さな親切行動はもつと増え、より良い社会になっていくはずである。

参考文献

三橋真人 (2013) 『小さな親切行動について考える』第 5 回対人援助学会大会抄録 対人援助学会 p.39